

広島県公立大学法人の新理事長



つちや さだゆき
土屋 定之さん(68)

この人

今春から広島県公立大学法人(広島市南区)の理事長を務め、県立広島大(南区)と開学したばかりの叡啓大(中区)のかじ取りを担う。中區出身の元文部科学事務次官。県から就任を要請され「郷土の発展に貢献できる」と即答で引き受けた。

今春から広島県公立大学法人(広島市南区)の理事長を務め、県立広島大(南区)と開学したばかりの叡啓大(中区)のかじ取りを担う。中區出身の元文部科学事務次官。県から就任を要請され「郷土の発展に貢献できる」と即答で引き受けた。

北海道大大学院修了後、1979年に科学技術庁(現文科省)入り。文化庁文化財部長の時に、石見銀山遺跡(大田市)の世界遺産登録を担当した。科学技術・学術政策局長のポストでは産学の研究開発プログラムづくりに取り組み、「今ある技術を磨くのではなく、革新的な提案ができた」と回顧する。

研究者が集う専門家集団として、地元へ貢献するという意識も高い。「人口減少などの課題解決と同時に、経済発展と生活の質の向上を実現したい」

2018年1月から2年半は駐ペルー大使として現地へ赴いた。「人間万事塞翁が馬」を座右の銘とし、「楽しみながら仕事をしてきた」と振り返る。

48年ぶりの地元暮らし。趣味は鉄道模型で、南区の自宅マンションから見下ろす広島駅周辺を「模型のようで最高のロケーション」と喜ぶ。新

理事長に着任後、2大学を歩き来する。県立広島大の庄原、三原市の各キャンパスを訪れ、地元で活躍する人材を送り出してきた環境の良さをしむつもりだ。(赤江裕紀)